

# 地方都市視察報告書

防災等安全対策特別委員会

1 実施日 平成30年7月4日（水）

2 視察地 新潟県糸魚川市

## 【市の概要】

(1) 面積 746.24km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数

(平成30年7月1日現在)

○人口 43,264人

○世帯数 17,443世帯

(3) 糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県と接している。市域には、中部山岳国立公園と妙高戸隠連山国立公園、親不知・子不知県立自然公園、久比岐・白馬山麓県立自然公園を有し、海岸、山岳、溪谷、温泉など変化に富んだ個性豊かな自然に恵まれている。

また、森林資源やヒスイ・石灰石等の鉱物資源や水資源など地域資源が豊富で、フォッサマグナについては日本列島生誕の謎を秘めた世界的な学術資源となっている。糸魚川といえば、質・量ともに国内随一のヒスイ産出地、そして、世界最古のヒスイ文化発祥の地。遥かにしえの時代、この地は高志（こし）の国、奴奈川（ぬながわ）の郷と呼ばれ、才色兼備の女帝「奴奈川姫」が治めていたという伝説がある。平成21年8月22日には「糸魚川ジオパーク」が日本初の世界ジオパークに認定、平成27年3月14日には北陸新幹線糸魚川駅が開業し、首都圏や北陸方面からのアクセスがさらによくなった。



3 視察項目・内容

糸魚川市大規模火災とその後の防火対策及び復興まちづくりについて

4 視察参加者

## 【委員】

桑原羊平委員長

平間しのぶ委員

中村しんいち委員

赤羽つや子委員

北島としあき副委員長

鈴木ひろみ委員

下村治生委員

雨宮武彦委員

佐藤佳一委員

志田雄一郎委員

ふじ川たかし委員

## 【随員】

議会事務局議事係

佐藤公彦

榎本直子

## 5 視察結果・所感

当初、平成 30 年 7 月 4 日、5 日に新潟県糸魚川市、石川県小松市へ視察に行く予定であった。視察目的として、糸魚川市では糸魚川市大規模火災とその後の防火対策及び復興まちづくりについて、小松市では自主防災組織への取り組みについてであった。しかしながら、7 月 5 日は西日本豪雨災害の為、小松市から避難所設立の為に視察が困難であるという連絡があった為に糸魚川市の報告のみとなる。

まず、糸魚川市大規模火災について簡単に触れる。平成 28 年 12 月 22 日昼前に発生し、翌日の夕方の鎮火まで 30 時間続いた火災である。損傷範囲は 147 棟、約 40,000 m<sup>2</sup>でした。このように長時間、広い範囲に火災が続いた一因として、当日は糸魚川市消防本部で午前 11 時 40 分に最大瞬間風速 27.2m/s を記録した不安定な状態である大気の日でもあった。

その視察を通して、火を出さない事が一番大切であるが、初期消火も大事である。行政、警察、消防の連携が非常に大事である。防災意識を風化させずに常に意識させる事。風の影響をきちんと把握し飛び火に注意する事。地域コミュニティーへの防災意識の向上、復興への迅速な対応、死者 0 で済んだ地域コミュニティーの重要性、本区として木造住宅密集地域への更なる対応、怪我をした方の大半が消防団員であったので、団員の自己管理の徹底について等、大切であると感じた。

新宿区は街頭消火器を約 4,000 本程度配備しており、更には、小型消防ポンプや D 級ポンプも配備している。防災対策としてオールハザードという同時災害への対応強化、更なる防災意識の向上、木密地域の不燃化更新、火災後の権利者、権利者意向の早期把握の重要性、事前復興模擬訓練のシミュレーションの一つとして取り上げたいなどの意見があった。今後、当区の防災対策を進める上で参考としていく。

## 6 主な質疑項目

- (1) 復興の際、苦労した事について
- (2) 雁木造りと防災の調和のやり方について
- (3) 被災前と比べた現在の人口規模について
- (4) 初期消火の重要性について
- (5) 消防・警察・行政の連携の重要性について
- (6) 火を出さない日頃からの心構えについて
- (7) 強風時における飛び火対応の強化について
- (8) 火事を発生させないための取り組みについて
- (9) 耐火基準に対する取り組みについて

## 7 その他

【共同視察者】危機管理課長 安藤広志 防災都市づくり課長 金子 修